

16/07/03

新発見に期待！新修宗像市史編さん始まる

合併前の旧宗像市、玄海町、大島村にはそれぞれの歴史・文化を知ることのできる『宗像市史』、『玄海町誌』、『大島村史』が刊行されていました。現在の宗像市は、平成 15 年に玄海町と、平成 17 年に大島村との合併を経て現在に至ります。これら平成の大合併から約 10 年を機に、市の自然や歴史を総合的に捉えようと、新しい宗像市史の編さんの取り組みを開始しました。

編さん期間は、平成 27 年度から平成 31 年度までの約 5 年間。この間に、これまでの研究や成果を基礎にしながら、有識者の協力を得て調査・整理を行うとともに、今回、新たな試みとして市民の皆さんとの協働により地域の歴史・文化の掘り起こしと再発見に取り組めます。

現在、新しい宗像市史の編さんのなかで特に危惧されているのは、これまで地域の生活や習慣の中に根ざして存在してきた自然・歴史・文化の消失です。

宗像は、福岡市や北九州市のベッドタウンとして昭和 40 年前後に大規模な宅地開発により一気に都市化し、生活様式が一変した時代がありました。その後も継続して、住宅地や交通網が整備され宗像各地で都市化が進みました。都市化した地域では、地域のつながりも希薄になり、その中で忘れ去られ消えていく歴史・文化があります。たとえば、地域と共に歩んできた神社のお祭りや境内の文化遺

産などで、今回の編さんでは、これらの調査・記録にも重点を置いています。

棟札とは、建物の棟上げや再建、修理の時に工事の由来、建築の年月、建築者や工匠などを記した木札のことです。棟札は書かれた文字を読み解くことで、当時の時代背景や社会構造を知ることができる貴重な文化遺産です。木製の棟札は、朽ちるともちろん無くなってしまいますが、過去には建物の解体時に散逸し廃棄されてしまったものもあったと聞きます。

最近の調査例では、王丸八幡神社や依岳神社の棟札があります。文字は墨で書かれていますが、一部判別しにくい部分は、九州歴史資料館で赤外線スキャナを用いて解読しました。

今回の調査では最新の調査機材を使用することで、これまでの研究や調査にはなかった新たな発見の可能性も期待されています。今後の調査成果にご期待ください。

(新修宗像市史編さん事務局)

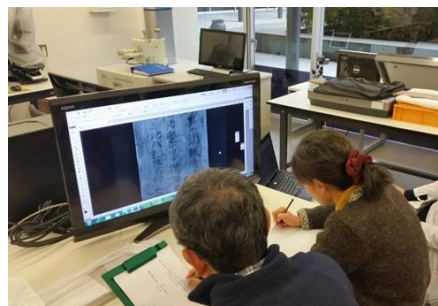
新修市史編さん事業について詳しくはこちら

むなかたタウンプレス 平成 28 年 2 月 15 日号

<http://city.munakata.lg.jp/w001/050/050/1850/06.pdf>

むなかたタウンプレス 平成 28 年 6 月 15 日号

<http://city.munakata.lg.jp/w001/050/050/2010/28061504.pdf>



機器を使い文字の判別を行っている様子



神社に保管されていた棟札

16/07/04

謎の蝶アサギマダラ

1. アサギマダラはどんな蝶?

羽根の白く見える部分が「浅葱(あさぎ)色」であることから「アサギマダラ」と呼ばれています。浅葱色とは日本古来の色名で、神主の袴の色でもある淡い空色のことです。アサギマダラの半透明の羽は太陽に透かすと水色に見えます。(図1)



図1 ホルトノキで吸蜜する 平成27年7月 自由ヶ丘南にて

水色の部分は鱗粉が無いので、マーキング(標識)ができます、その蝶が移動し各地で再捕獲されます。

2. 移動するアサギマダラ

アサギマダラは春に台湾・沖縄から北上を始め、宗像には5月にスナビキソウに飛来し世代交代をしながら、東北や北海道まで北上します。その後秋になると南に向かって移動を開始しますが、宗像には9月から10月に南に向かって移動する時に、ヒヨドリバナやフジバカマに飛来します。下の図は宗像のアサギマダラが屋久島・奄美大島で捕獲されたデータです。

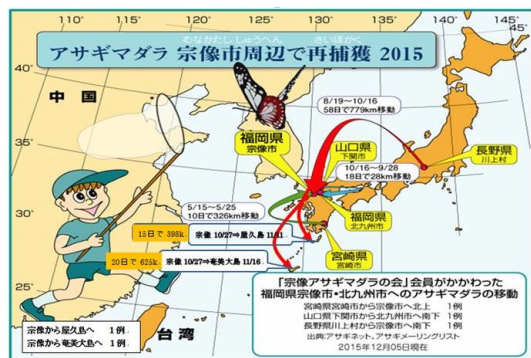


図2 宗像に関する移動図

3. 宗像アサギマダラの会

「宗像市環境リーダー育成講座」卒業生が集まって27年3月から活動が始まりました。

西田先生(むなかた蝶類研究会)の講座「生物多様性」の中で、城山で幼虫が生まれていることを教えてもらいました。(右端が西田先生)。この時から会を作って活動を続けようと声が上がリ結成に繋がりました。会員は54人(子どもを含む)になり活動を進めました。5月の北上蝶にマーキングしている時に宮崎の蝶を捕獲しました、秋には南下の蝶に標識をし

たものが屋久島と奄美大島で捕獲され、宗像から南の島へゆくコースが分かりました。



環境地域づくり研究所 前田 秀敏



今回は、13時から体験学習がスタート。

15時、セレモニーが始まり、遠矢教育長と田熊石畑村づくりの会から山田村長の挨拶がありました。

続いて、ステージイベントが始まりました。

16/08/14

いせきんぐ宗像の周年祭 が行われました

昨年、7月19日に全面オープンした「いせきんぐ宗像」(田熊石畑遺跡)で、周年祭が行われました。主催は宗像市教育委員会、主管は田熊石畑村づくりの会、協力は東郷地区コミセン運営協議会です。

7月23日土曜日、真夏の太陽が照り付ける約1万坪の歴史公園は、緑の芝生に覆われ、市街地とは思えない広い空間です。園内には、体験学習や、出店など、28のテントが並びました。



ステージに上がり挨拶をする 宗像市・遠矢教育長



いせきんぐ宗像村づくりの会 山田村長の挨拶

出演者はプレスリーそっくりの衣装で、本人の歌を物まねする・テラヴィスさん。人気のバンド・クアトロックのライブ、つづいて、

まりこふん・古墳でコーフンショー。締めくくりは出演した3組が総出でミニコントとライブ。音楽中心の楽しいイベントでした。



プレスリーそっくり、テラヴィスさん



暑い夏にはロックを、「クワトロック」



昨年に続き、パワーあふれるステージは、まりこふんさん

まりこふんさんは、世界遺産の構成資産である、「新原・奴山古墳群の歌」を作詞作曲し、本日初披露となりました。また、いせきんぐ宗像周年祭マンスリー特別企画として、7月の土・日には「弥生人の暮らし体験」が開催さ

れ、竪穴住居の模型の組み立てや、火おこし体験が行われ、公園内の寄合どころでは、海の道むなかた館の移動博物館があり、宗像市教育委員会制作の遺跡を紹介したビデオと、田熊石畑村づくりの会が自主制作した、いせきんぐ宗像プロモーションビデオが放映されました。また、村づくりの会で制作した「いせきんぐへ行こう」というイメージソングも披露されました。

体験学習の参加者には、今回制作されたカンバッチ2個のプレゼントが配られました。

遺跡は保存のため、すべて地中に埋め返されています。墓域から出土した武器形青銅器は、海の道むなかた館の特別展示室で見ることができます。今回、移動博物館として、そのうちの3点が「寄合い処」で展示されました。

来場者に遺跡を実感してもらえるよう、村づくりの会により、実物大の絵が布に描かれ、掲げられていました。

直径 60mの環濠は深さ 3.5m 幅 3~4m のV字溝で囲まれていました。復元された小さな2棟の建物の地下は、深さ 1.5m 直径 1.2~1.5m のフラスコ型の貯蔵穴になっています。



V字溝の実物大の図



貯蔵穴の実物大の図



弓矢体験は広い園内を利用して思い切りできる



区画墓から出土した武器形青銅器のレプリカを展示



勾玉づくりも人気



うちわの骨組みを利用して前方後円墳などの古墳型うちわをつくり、まりこふんのステージを盛り上げた



土器パズルは、磁石のついた部品を組み立てて、弥生土器を復元



実物の 2 分の 1 の大きさの竪穴住居を組み立てる体験学習が行われた。



原始機（げんしはた）はたおりの原理を体験

13 時から 17 時までの短い時間でしたが、およそ 3000 人の人々が訪れました。この後、

17 時から東郷コミセンによる、「夏まつり 東郷 2016」が始まりました。

宗像市と地域コミュニティーと市民の協働による歴史公園の運営が、今後も発展していくことが望まれます。

宗像電子博物館運営委員 平松秋子

17/01/02

いせきんぐ秋祭り が開催 されました。

平成 28 年

11 月 27 日、日曜日。いせきんぐ秋祭りが開催されました。

朝から雨が降り傘をさしての来園となりましたが、11 時から始まる、古代食体験をしようと、3 張のテントの前に大勢の人が集まり、用意した 100 人分の無料の古代食はすぐになくなりました。



古代食は、1つのプレートに、赤米ごはんとかジビエ（イノシシ肉）の焼肉で、事前に塩こうじに付け込んだ肉は大変味も良くおいしい肉

になりました。それに、ソバがき、太古菜スープ、炒った銀杏とシイの 5 品を盛り付けたものです。弥生時代に食べられていた食材を主として調理されています。



また、赤米は村づくりの会が当地で栽培したもので、やぐらにかけて天日干しにしたものです。このほか、同じく栽培して収穫した、サツマイモ、落花生をアミで焼き、ふるまわれました。試食した方々の感想は「とてもおいしかった」ということです。



寄合処では、コーラスグループ「ピュアーミント」のメンバー 8 人による、いせきんぐ宗像のテーマソング「いせきんぐへ行こう」の発表会が行われました。案山子やイノシシ、シカの置物を背に、軽快なリズムに乗って、明るい歌声が会場に流れました。

この他、「365 日の紙飛行機」も歌われ、参加者と一緒に口ずさみ、アンコールの声がかかるほどでした。



寄合処では、出土した青銅製の武器や土器の展示があり、壁面には田熊石畑遺跡の写真が並び、歴史公園について、知ることができる場所です。



いせきんぐ「村っこ」たちの作った案山子や、弓矢体験的、イノシシとシカの置物も並んでいます。



子どもたちは火おこし、勾玉づくりなど弥生時代の歴史体験をして楽しんでいました。



この他お土産として、田熊石畑遺跡カンパッチ、木の実の袋詰、赤米の 3 種類が用意され、それぞれ好みの品物を 1 つ持ち帰りました。

開園して 2 年目を迎えた田熊石畑歴史公園です。村づくりの会の活動により、初めて赤米など古代作物が収穫され、秋祭りが行われました。

緑の芝生に覆われた 1 万坪の広い公園は、放課後の子どもたちの居場所づくりや、市民が楽しく散歩をしたり、弥生時代の歴史を知ることのできる場所として、運営されています。お天気の良い日は四塚連山や、許斐山が見え、健康づくりにも最適です。

みんなで「いせきんぐへ行こう」！

